夕刊

十一月四日發行

定價一部金六錢　郵送料共金五錢
西月分金六錢
廣告料　特等一段金九拾錢　二段金六拾錢　三段金四拾錢　四段金二拾錢　五段金一拾錢　小枠一行一回金拾錢
發行人兼編輯人　磐城新聞社
印刷人　磐城新聞社
發行所　磐城新聞社
電話一番
（日曜祭日翌日休刊）

童話

ある兩親と小供の話

千葉省三

—(5)—

けんくわ

た父さんと、お母さんは電燈の下のチャブ臺に向ひ合つてゐました。

チャブ臺の上には、坊やのすきなお魚のおつゆや、お漬物や、燒海苔が並んでゐました。

坊やはお母さんのわきに坐つて、さつきから上目づかひで、お父さんとお母さんのやうすを、かはるがはるながめてゐました。

『かあちやん、たべないの！』

しばらくして、坊やはちひさい聲でたづねました。

『ええ、かあさんはしくないの坊やだけおあがり』

お母さんは青い顔をして下をむいたまま答へました。

『パパちやん、たべないの！』

坊やは、またお父さんにたづねました。お父さんはムツツリしてゐてお返事もしてくれませんでした。

坊やは、つめたくなつた汁を、たつたひとりですすりました。

なにか二言三言、烈しい云ひ合ひをしたと思ふと、た父さんはチャブ臺の上の汁の鍋をつかんで、いきなり壁にたたきつけました。そして手荒く襖をあけて玄關の方へ出て行きました。

間もなく玄關のガラス戸がひどい音をたてゝあいて外へ出て行く足音が聞えました。

その物音は坊やにも、いつもと違つて何かキツパリしたものを感せられました。そしてた父さんは、もう歸つてはこないのではないかしらといふ疑ひがかすかに起つたのでありました。

坊やはあとを追ひかけてがたれてゐました。

坊やはそつとお臺所へ立つて行つて、お雜巾を持つてきて、お母さんの前に落ちてきました。お母さんはそれで壁をふいてまたつつぶして泣きつゞけました。坊やは永いことお母さんのえりの首の毛が、こまかくふるへてゐるのを見つめてゐました。

ふと目を上げると、お母さんのつつぶした姿が、大行つて『パパちやん』と呼びかけて見ようかと思ひました。けれどなぜか立つて行く氣になれませんでした。

た父さんの足音は闇の中にだんだん遠ざかつて行きました。坊やはそれを聞きながら、ただ心の中で幾度

時代警語

○貴くして賤しきに下れば卽ち衆惡まざるなり、富みて能く貧しきに分てば卽ち窮士惡まざるなり、智にして愚に教ゆれば卽ち童蒙惡まざるなり……（韓詩外傳）

水戸にて（二）

島田忠夫

○霄沼町長就任賀

○みちのくの平の町の人こぞり君を擧げしと聞くは嬉しき

○髮白くなりつる君が町の爲めに力盡すとふ聞くに雄々しき

○ふるさとの町に還りて老いの身をあげて盡さす尊きろかも

○君が婿の里川國手と知れるゆえ親の如くに我も君を思ふ

○ここだくの業務ひかふる君が身にただ健けく在れと祈らむ

高月會句抄

十月例會

芒

むらすゝき池畔や翁の忍び釣り　湖晴
江に近き雀亂るゝ芒かな　同
滿園の夜露に搖く薄かな　石水
水車場へ行く細道や花薄　良亭
野鼠のかくれて搖るゝ芒哉　紅果
頂上で振り返り見る薄道　同
廢坑となりて全山芒かな　秀峰
徒歩の旅芒に早き入日哉　同
標木の暗に私語く芒かな　石水
夕暗を横切る影や薄原　秀峰
夕風にそよぐ芒や高低くし　山人
夕暮れに別れて淋し芒原　天仙
堰堤に垢からひいる芒かな　同
雨運ぶ風にうなだる薄哉　耕影
葬歸り薄野あたり黃昏れて　同
旭のさして水霜光る薄哉　閑月
さびれ磯夕風寂し崖薄　同

拈華微笑

旭神社前の卽吟

◇

遷宮式の供物に櫻紅葉哉、嶽夫

宮遷す式の供物に散。紅葉。耕影

◇

秋風に幣のそよぎや鎭座祭。嶽

金風に幣のそよぎや神鎭む。耕

◇

敬神署長小田部警部の太陽禮讃

正に光輝燦然矣

◇

木炭組合に仲間割れ。ザク炭と云ふ奴かな？

◇

あす火防デー。同時に身命財産を庇ふデー

◇

山鳩なんかも鳴いてます

春戸田の芹もそろ〳〵伸びて

新月梢にのこつてる。

社會の今日

△對墺休戰條約成る（大正七）△第二次日本共產黨陰謀事件發表、檢擧八百餘名（昭和5月11日四）△白晝の上海に千餘名の海賊團襲來大掠奪をなす（同五）△新年勅題『曉雞聲』仰出さる△エチオピア國特使ベラランゲタヘイル來朝△全國勞働組合同盟分裂（同六）

○

小春日や岩根傳ひに夫婦猿　ミネ女

風狂ふたどろの芒小鳥網　野風呂

消息

文藝新聞創刊　元新いわき記者島田忠夫君らの旬刊石城文藝新聞は來月一日創刊號を發行する筈で目下文藝、映畫、其他一般原稿の募集中であるが締切りは來二十日、發行所平町禰宜町二一島田方である。

赤とんぼ

高橋わたる

秋の野草にたそがれて
白い茶の花
匂ひます
ぬぐらに迷ふ
とんぼらか
星もチラ〳〵
見えまする。

裏山

木の實が風に
落ちました
子供っ拾ふ
ころがして

新刊紹介

△帆立理一郎個人雜誌『人生』十一月號、卷頭言『英雄非待望論』論說『人格の表現としての服裝』詞藻ロオウエルの詩『騎士ランフォールの靈夢』下研究『イエスの生活原理第十一章幸福への道』其他時評、雜錄、人生問答等（一部十五錢東京市神田區北神保町二新生堂）

△

△

△

平署氏神社名「旭」の由來

菊薫る昨三日の遷宮式で

小田部署長か敬虔な寓意を語る

山部神宮まうさくの祭祠中の所謂『檢非違使の司の垣内に』祀られたる平署の氏神旭神社遷宮式は、菊薫る昨三日の明治節をトし、午前十時から中島監督判事、小林上席檢事、青沼『伏見新舊町長、井上、萩原兩縣議、管内消防組幹部警親會員、全署員其他參列いとも莊厳に執行されたが『旭神社』としたる社名の由來に就て小田部署長は式の挨拶中次の如く註釋を加へた

警察官の象徴は『旭』

祭神の天照皇大神も太陽

＝（挨拶中の註釋概要）＝

——祭神の天照皇大神は弘く萬物を光被する太陽で全宇宙間之れが德澤に浴せざるものは無い、而して吾人警察官の精神を象徴してゐるのも日章である、之の敬虔なる寓意から採つて以て我が平警察署の氏神の社名とした所以であつて、吾人署員は日常座臥この太陽の涯り無き仁慈と明朗とをその大精神として地方の治安維持に任じ、民衆の思想善導と署員の精神修養に資し度い念願である。云々

宜に意義深きこと

青沼町長祝辭

尚は來賓代表として述べた青沼町長祝辭沼町長の祝詞中にも——全國民が擧げて奉讃感激すべき明治節をトし旭神社の遷宮式の擧行された事は宜に意義深き儻しであつて吾人の永久に之を記念すべきである、製された平町の衆議院、町吾人の信頼する平署員諸會議員選擧有資格者名簿は公が常時この氏神を對象明五日から十五日間町役場とした敬虔な念慮を以てせらるる治安維持と民衆の思想善導と更に各自の修養とに至つては其の効果蓋し期して俟つべきものがある。云々

別室で清宴

大に祝福の意味が籠められてあつた了つて各方面代表が玉串を捧げて十一時閉式直に會議室に於て祝賀の清宴を張り郷土訪問飛行は一般から大決行する旨通知あつたと

晴れ次第決行

松崎君の郷土訪問を前に

一般ファンの焦躁

平町出身二等飛行士松崎二郎君が今四日から三日間に亘つて決行の豫定であつたれたが今四日午後晴れ次第に降雨で延期される旨傳へられ

收納季の雨！

見込違ひで泣き面へ蜂の

農家氣を揉む

地方全般に亘る稲作は永年想が裏切られ平年作に比べ自作の經驗を有する農家自寧ろ若干減收の實情を目の身から増收を確信してゐたあたり見せつけられ、それのであつたが刈入時になつて歩刈の成績その他結實の狀況から見て豐穣皺腹の豫

稲の乾燥季は二百十日の開花季に次ぐ最も大切な季節で農家は悉く快晴の日を望んでゐるが秋晴れの日が少く目下農村では非常に之の天候に氣を揉んでゐる

平町公私立平町公私立九校長會議學校長會議は昨三日午後六時から大貞に於て開催矢野平商校長歡迎會後今後の豫定計劃に就て懇談し盛況裡に九時散會した

政府米買上げに踊らぬ地方農家

安い上に手續が面倒

米價安に悲觀して居た郡下農村から多大の期待を繋がれてゐた政府買上米は蓋あるが安價の處へ手續が面倒けの結果が意外の安價で何なため昨三日迄には一口のれも失望し切つてゐる折柄申込もない有樣である

選擧有資格名簿縱覧

明五日より十五日間公開

九月十五日の現在により調製された平町の衆議院、町會議員選擧有資格者名簿は明五日から十五日間町役場公が常時この氏神を對象とした敬虔な念慮を以てで一般に縱覧を許されるがせらるる治安維持と民衆の思想善導と更に各自の修養とに至つては其の効果蓋し期して俟つべきものがある。云々

沼田氏當選

内郷村長決定

野木氏の病氣退職に因る内郷村長後任問題は縣下第一の大村を燮理して行ける人材を求ゆねばならぬ丈けに人選上周到なる研究を續けられたが一昨二日の村會に於て出席二十五名の村議が滿場一致沼田留之助氏に決定大に新村長の將來を期待される

他で希望者の取纒め中であるが安價の處へ手續が面倒なため昨三日迄には一口の結果が意外の安價で何なため昨三日迄には一口の結果が意外の安價で何なため昨三日迄には一口の結果が意外の安價で何